

神奈川中央交通

*100*年史

刊行にあたって

神奈川中央交通は、おかげさまで、本年創立100周年を迎えることができました。ここに、お客さまをはじめ関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

当社の歴史は、1921（大正10）年、横浜市大岡町において前身の相武自動車が発立されたことに遡ります。

大正から、昭和、平成、令和と100年にわたる当社のあゆみは、決して平坦な途ばかりではなく、関東大震災およびそれに続く昭和初期の大恐慌、さらに日中戦争から第二次世界大戦といった政治、経済の激動期に直面し、その後の昭和の高度成長とともに当社も発展を続けましたが、二度にわたるオイルショックから平成のリーマンショック、また東日本大震災等の自然災害による危機など、幾多の困難を乗り越えてまいりました。

先人たちが様々な努力により築き上げてきたこの100年の歴史を踏まえ、今後も、時代の変化を的確に捉えながら、公共交通機関としての役割をしっかりと果たし、神奈川県を中心とした地域の皆さまの生活向上に貢献してまいります。

この度、創立100周年の節目に合わせ、『神奈川中央交通100年史』を刊行いたしました。本史では、当社100年の歴史を、最近の10年を中心に振り返っておりますが、資料編につきましては可能な範囲で創立時からの記録を掲載しております。

100周年を契機に、社員一同気持ちを新たにし、お客さまに信頼・支持される神奈川中央交通を目指してまいりますので、皆さま方には、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年10月

神奈川中央交通株式会社

経営理念

神奈中グループ経営理念

お客様の「かけがえのない^{とき}時間」と「ゆたかなくらし」の実現に貢献します。

神奈中グループが事業活動を通じて社会に対して果たすべき役割・責任や、企業市民として社会に存在する意義を表しています。神奈中グループは、お客様の期待に応え、お客様に満足していただける価値ある時間や空間を創造・提供していくことで、お客様の大切な時間を快適で心地よいものにするお手伝いをし、良きパートナーとしてお客様の明るくしあわせなくらしの実現に貢献します。

経営方針

- ・お客様の視点に立ち、期待に応える価値を提供します。
- ・地域の明日を考え、みなさまとともに歩みます。
- ・従業員が働くよろこびを実感できる、活気ある企業を目指します。

経営方針に則って事業活動を行い、経営理念を実現することで、関わり合うすべてのステークホルダーの発展と、会社の価値向上を目指してまいります。

行動指針

お客様のために、私たちは

- ・一人ひとりが会社の顔としての自覚をもち、今日の仕事をやり遂げます。
- ・相手のことを理解し、協力して互いにとって「よりよい答え」を見つけます。
- ・何事にも信念をもって取り組み、積極的に挑戦します。

神奈中グループの社員は、この行動指針を常に念頭において業務に従事します。また、様々な問題に向き合った時にはこの行動指針に立ち返って何をすべきか考えます。

Kanachu

〈ブランドマークに込められた想い〉

地域に暮らす人々の声に耳を傾け、その時々
の期待や要請に応じて新たなサービス、新た
な事業領域へと果敢に挑戦していく、そのよ
うな神奈中グループのあるべき姿を表現する
デザインといたしました。

ブランドマークのカラーは、神奈中グルー
プが目指す真摯で誠実な企業姿勢を表す深い
ブルーを採用しました。

また神奈中グループの頭文字である「K」
を三重線でまとったフォルムとしました。

これは、お客さま・地域社会と神奈中グルー
プ各社が相互に響きあい、発展していく姿を
表しています。



当社100周年記念施策の実施にあたり、100
周年記念ロゴを制定いたしました。

数字の「1」は当社がこれまでバス業界の先
駆けとしてたくさんのお客さまを運び、豊か
な未来をつくってきたことを表しています。

これに続く2つの「0」は、車輪とともにヒ
トやモノが移動する様子を表しており、それ
らを神奈中バスのカラーである3色で表現して
います。また、下部にブランドマークを配す
ることで、より視覚的に「神奈川中央交通100
周年」を認識していただけるようにしました。

神奈川中央交通社歌

藤浦 洸 作詞

古関裕而 作曲

著作権の都合上、
ホームページでは掲載しておりません



本社およびグランドホテル神奈中・平塚の全景



LUSCA

ベルマーレ応援割

UP

横浜銀行

行



平塚駅北口のバスロータリー



かなみんのラッピングバス「街の風景」バージョン（2014年）



河口湖湖畔を走行する都市間高速バス（2015年）



辻堂駅北口～湘南ライフタウン・慶応大学間に導入した連節バス ツインライナー（2018年）



横浜市栄区で実施した、中型自動運転バスでの実証実験（2021年）



分譲を開始した「プレミスト湘南辻堂」(2017年)



岩手県胆沢郡金ケ崎町に建設した太陽光発電所（2015年）

刊行にあたって	3
経営理念	4
ブランドマーク・100周年記念ロゴ	5
神奈川中央交通社歌	6
口絵	7

沿革 1921 ▶ 2010

序章

設立前史

自動車の出現とバス事業の始まり	20
交通の要衝であった神奈川県の古道	20
神奈川県におけるバス事業	21
自動車の法整備	21

第1章 1921(大正10)年 ▶ 1945(昭和20)年

船出、戦時色が強くなるなかでの生き残り

相武自動車の創業と事業拡大	22
バス事業への統制と燃料不足のなかで	23
神奈川中央乗合自動車の誕生	24
「代燃車」の運行と空襲による被災	24

第2章 1946(昭和21)年 ▶ 1955(昭和30)年

戦後復興とともに事業拡大へ

戦後の混乱をくぐり抜けて路線網を拡充	26
小田急グループの一員となって新たな船出	27
路線バスの輸送力増強と新社屋でのスタート	27
貸切事業の業容拡大	28
乗用事業（ハイヤー・タクシー）の業容拡大	28

第3章 1956(昭和31)年 ▶ 1965(昭和40)年

大量輸送の効率化と多角経営への道

経済成長、人口増加でバス路線を拡大	30
全国で初めて多区間制ワンマンバスの運行開始	31
観光をはじめとする関連事業への進出	32
増資と経営トップの交代	33

第4章 1966(昭和41)年 ▶ 1975(昭和50)年

生活スタイルの多様化とともに

バス事業のエリア拡大	34
業界初の深夜バス運行開始	34
経営合理化の推進	34
整備工場の拡充	35
貸切バス事業の進展	35

乗用事業（ハイヤー・タクシー）の子会社への営業権譲渡	35
神奈中商事による事業の拡大	36
省力化と環境問題への対応	36
不動産事業への本格的な進出	36

第5章 1976(昭和51)年 ▶ 1985(昭和60)年

利便性向上の取り組みや他業種への進出

「自由乗降バス」、「買物バス」の運行を開始	38
主要駅にバスターミナルが設置される	39
国内旅行事業に本格的に進出	39
社有地を利用した貸店舗の建設	39
スポーツ施設の拡充	40
新社屋建設をきっかけにホテル事業に進出	40
ラーメンの人気の注目に食堂事業に進出	40
遊技場事業にも参入	41
長尾社長が他界、後任に青山茂が取締役社長に就任	41

第6章 1986(昭和61)年 ▶ 1995(平成7)年

時代のニーズへの取り組み

業界初のバスカードシステムを実用化	42
バスモニター制度、バス総合案内システムを導入	42
「カナちゃん号」登場	43
深夜急行バスの運行を開始	43
綾瀬営業所を新設	44
バスターミナルの整備、バス専用・優先レーン規制が実施される	44
バスダイヤ自動編成システムで事務の効率化を実現	44
貸切バスの高級化を進める	45
夜間高速バスの運行を開始	45
当社最大の複合ビル「秦野アルファビル」が竣工	46
ホテルの別館完成、秦野にも進出	46
念願のゴルフ場を伊豆にオープン	46
社内組織を見直し、効率化を追求	47
齋藤寛が取締役社長に就任	47

第7章 1996(平成8)年 ▶ 2005(平成17)年

平成不況の続くなかで、さらなる経営基盤の強化

乗合事業の規制緩和に対応	48
公共車両優先システムを導入	49
連節バスを基軸とした新たな公共交通システムを導入	49
「バスロケーションシステム」を導入	49
空港連絡バスの運行を開始	49
中型・小型バスの投入やコミュニティバスの運行	50
ユニークな乗車サービスを開始	50
営業所の新設と移転拡充	50
神奈中情報システムの設立	51
バスダイヤシステムの再構築	51
次々と新店舗を展開	52
子会社の設立と統合	52
賃貸ビルの建替えと新築を進める	53

取締役会長青山茂が勲二等瑞宝章を受章	53
高橋幹が取締役社長に就任	53

第8章 2006(平成18)年 ▶ 2010(平成22)年

効率的な事業経営を推進

機構改革で経営効率化を進める	54
横浜市交通局と相模鉄道からバス路線を譲受	54
川崎市交通局からの管理受託	55
「バス・鉄道運行情報システム」を導入	55
厚木市にも連節バスを導入	55
空港連絡バスのエリア拡大	55
神奈交バスへのバス運行業務委託を拡大	56
バスの乗降方式を「中乗り」「前降り」方式に変更	56
バス共通カードから交通系ICカード「PASMO」へ	56
「運輸安全マネジメント制度」が導入される	56
自転車利用者に対する取り組み	57
環境に配慮した取り組み	57
サービス向上の取り組み	57
輸送安全の確保	58
新たな子会社の設立	58
乗用事業（ハイヤー・タクシー）の中間持株会社を設立	59
グループ各社の新店舗開設	59
湘南めぐみが丘で分譲開始	60
取締役会長齋藤寛が旭日重光章を受章	60
三澤憲一が取締役社長に就任	60

近10年のあゆみ 2011 ▶ 2021

I 10年の概観

当社を取り巻く経営環境の変化	62
(1) 多発する自然災害と長期政権下の日本経済	62
(2) 新型コロナウイルス感染症による経済への影響	62
法整備に伴う様々な変化	63
(1) 交通政策基本法と地域交通政策の推進	63
(2) 貸切バスをめぐる動向	64
(3) 働き方の変化と働き方改革関連法の成立	65
神奈中グループの中期経営計画の策定と実施	66
(1) 「神奈中グループ中期経営計画（2012年度～2014年度）」	66
(2) 「神奈中グループ中期経営計画（2015年度～2017年度）」	66
(3) 「神奈中グループ中期経営計画（2018年度～2020年度）」	67
(4) 「神奈中グループ中期経営計画（2021年度～2023年度）」	68
三澤会長、堀社長の新体制がスタート	68
本社組織の改正	68
<コラム>	
青山茂元会長逝去、「お別れの会」開催	64
高橋幹会長、日本バス協会会長に就任	65
三澤憲一会長、日本バス協会会長に就任	68

II 社内の動向

健全な経営体制への取り組み	70
(1) コーポレートガバナンス・コードへの対応	70
(2) 経営会議の発足	70
(3) 執行役員制度の導入	71
企業価値向上に向けた取り組み	71
(1) 働き方の見直しによる制度の導入と改定	71
(2) 採用の強化と資格取得の支援	72
(3) 格付融資による資金調達	72
(4) 社債の発行	73
(5) グリーン経営認証を取得	73
(6) 株主優待制度の拡充と株式併合の実施	73
(7) 「グループ神奈中」を発行	74
ブランド力向上の取り組み	74
(1) ブランドマーク制定	74
(2) 「かなみん」の誕生	74
(3) 広報発信の強化	75

III 一般旅客自動車運送事業

乗合事業の組織変更と再編	76
(1) 営業所の組織変更	76
(2) 乗合事業における再編の背景	76
(3) 3社体制への移行	76
顧客ニーズに合ったサービス提供	77
(1) 交通系ICカードの全国相互利用サービス開始	77
(2) 輸送人員をデータベース化するODシステムが完成	77
(3) バス運行情報案内表示機等運用開始	77
(4) ノンステップバスの安全性の拡充	78
(5) 行先表示器の白色LED化	78
(6) 交通結節点の開設と整備	78
(7) 消費税率引き上げに伴う運賃改定	79
CSRへの取り組み	80
(1) ラオスに2回目の車両寄贈	80
(2) 神奈川県と「ボランティアバス運行に関する協定」締結	80
(3) コミュニティバスの運行	80
(4) 湘南ベルマーレのユニフォームでシャトルバス運行	81
安全・安心への取り組み	81
(1) 訓練・講習会の実施	81
(2) 全車両にセイフティレコーダ、ドライブレコーダを設置	82
(3) アルコール検知器の機能を強化	83
(4) イエローストップ運動の推進	83
(5) 発車時の「車内よし」の励行	83
(6) 交差点右左折時に一時停止を励行	83
(7) EDSS搭載バスを導入	83
(8) 研修センターの移転および運転教習コースの新設	84
新規開通路線	84
(1) 路線バス	84
(2) 連節バス	86
(3) 深夜急行バス	86

(4) 空港リムジンバス	87
(5) 都市間高速バス	87
川崎市交通局からの管理受託	88
営業所施設の整備	88
(1) 相模原営業所峡の原操車所（現・橋本営業所）の建替え	88
(2) 相模原営業所三ヶ木操車所整備工場（現・津久井営業所整備工場）の建替え	88
(3) 大和営業所中山操車所（現・中山営業所）の移転	88
(4) 平塚営業所の建替え	88
(5) 秦野営業所の建替え	89
(6) 茅ヶ崎営業所の建替え	89
<コラム>	
2019年ゴールデンウィーク神奈中10日間フリーバス	81
バスルートマップ	84

IV 不動産事業

分譲マンション事業	90
(1) クレヴィア戸塚	90
(2) リーフィアレジデンス伊勢原	90
(3) プレミスト湘南辻堂	90
戸建・宅地分譲事業	90
(戸建事業)	
(1) 平塚市めぐみが丘	91
(2) 藤沢市遠藤	91
(3) 横浜市磯子区洋光台	91
(4) 茅ヶ崎市室田	91
(5) 横浜市旭区さちが丘	91
(6) 横浜市都筑区荏田南4丁目	91
(7) 世田谷区上馬	91
(8) 茅ヶ崎市小和田	91
(9) 横浜市泉区緑園	91
(10) 横浜市都筑区荏田南2丁目	92
(宅地事業)	
(1) 藤沢市大庭	92
(2) 茅ヶ崎市菱沼	92
(3) 横浜市都筑区荏田南2丁目	92
賃貸事業	92
(1) 舞岡貸店舗（マルエツ）	92
(2) 高島町賃貸マンション	92
(3) 戸塚駅東口ビル（スーパーホテル）	93
(4) 平塚市浅間町貸店舗（ホームセンターコーナン）	93
新規事業としてメガソーラー事業への参入	93
不動産センターの移転	93

V 神奈中グループ各社の動向

一般旅客自動車運送事業	94
(1) 貸切事業 神奈中観光(株)	94
(2) 乗用事業 神奈中タクシー(株)	95
自動車販売事業	97
(1) 神奈川三菱ふそう自動車販売(株)	97

(2) 神奈中相模ヤナセ(株)	97
飲食・娯楽事業およびホテル事業	97
(1) (株)神奈中システムプラン	97
(2) (株)ランドホテル神奈中	98
その他の事業	99
(1) (株)アドベル	99
(2) (株)神奈中スポーツデザイン（旧・(株)クリエイイトL&S）	100
(3) (株)神奈中商事	100
(4) 横浜ビルシステム(株)	101
(5) 神中興業(株)	101

VI 次世代に向けた取り組み

自動運転推進への取り組み	102
(1) 小田急電鉄(株)、慶應義塾と連携協定を締結	102
(2) 小田急電鉄(株)、SBドライブ(株)と協定を締結	102
(3) 中型自動運転バスでの実証実験	103
MaaSアプリを使ったオンデマンド交通	104
「NEXT 神奈中プロジェクト」始動	104
100周年記念施策	105
(1) 記念コンセプトワードの制定	105
(2) 記念ロゴの制定	105
(3) 制服の刷新	105
(4) 記念サイト	105

特集

特集1 写真資料を基に歴史を振り返る 写真アーカイブズ	108
特集2 現物資料を基に歴史を振り返る 資料アーカイブズ	113

資料編

定款 118／歴代社長 120／現役員 121／歴代役員任期一覧 122／業務組織図 129／単体 従業員数の推移 130／単体 資本金、売上高・当期純利益の推移 132／連結 セグメント別売上高・当期純利益の推移 134／連結 セグメント別従業員数の推移 135／在籍車両数の推移 136／乗合バス路線略図 138／運行系統表 140／会社・営業所の概要 154／グループ会社の概要 161／神奈川中央交通の変遷 168／神奈川中央交通およびグループ会社の変遷 170／労働組合の概要 174／年表Ⅰ 1921年～2010年 175／年表Ⅱ 2011年～2021年 192

編集後記	199
------	-----

凡例

1. 本史の記述範囲は、序章を除き原則として1921年～2021年3月までとしたが、適宜4月以降の記述も加えた。
2. 年号は西暦を用い、各項目の初出時および年号改正時のみ和暦を併記した。
3. 会社名・市町村名などについては、原則として当時の名称を用い、適宜現名称を併記した。